

会議議事摘録

会議名	2024 年度第 3 回学校関係者評価委員会
開催日時	2025 年 3 月 1 日（土曜日）10：00～12：00
場 所	本校 7 階研修室
出席者 (敬称略)	①委員：赤塚敦子（看護関連業界関係者）、石川幹夫（卒業生）、黒田江里（保護者）、齊藤つばさ（くすり関連業界関係者）、篠塚功（医療事務関連業界関係者）、藤井寿和（福祉関連業界関係者）、森川雅彦（高等学校関係者）（計 7 名） ②学校：川口拓也（校長）、前田律子（副校長）、榊原幸之（事務局長）、村山由美（医療秘書科学科長）、石澤雅子（医療秘書科副学科長）、川畑亮子（医療事務 I T 科学科長・診療情報管理科学科長）、渋谷大樹（くすり・調剤事務科学科長代理、教務委員長）、松田朗（介護福祉科学科長）、伊東由美（看護科学科長）、光本文仁（キャリアサポートセンター長）、宗像秀樹（広報室長）、杉本拓朗（学生委員長）（計 12 名） ③委員会事務局：土屋瑠美子、土方雄太（計 2 名） （参加者合計 21 名）
欠席者	結城久美子（くすり・調剤事務科学科長）
配付資料	事前送付資料： □資料 1：2024 年度第 2 回学校関係者評価委員会議事録案、□資料 2：2024 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告 別添 A：2024 年度求人数・内定率・内定先状況、別添 B：2025 年度生募集状況、別添 C：2024 年度教員研修計画・実績、別添 D：2024 年度後期授業アンケート集計結果、資料 3：2024 年度学校関係者評価報告書案 当日配付・閲覧資料（下記■は当日、PC にて閲覧可） ■学生生活ガイド（6 学科、看護科）、■2024 年度講義要項（全学科）、■各種検定・資格試験取得率、□Challenge 就職活動ノート、□2025 年度入学案内書、□2025 年度募集要項（5 学科、看護科）
議題等	1. 校長挨拶 昨日の日経新聞に、今年の出生数は 72 万人で、政府計画よりも 15 年早く少子化が進んでいるとの記事が出ていた。教育現場ではひしひしと実感すると同時に、各産業から人手不足の話もたくさん聞こえてくる。本校の今年の就職率は 100%に近い数字になっており、難易度の高い大学病院に 5 人に 1 人が内定している状況である。 本日は、今年度学校が取り組んだ様々な検定・資格、就職状況等について報告する。忌憚のないご意見をいただき、それを基に改善していきたい、との挨拶が行われた。 2. 前回委員会議事録の確認（資料 1 参照） 委員長より前回議事録案について諮ったところ、委員から訂正を求める意見はなく、個人情報に配慮して公開することが承認された。 3. 2024 年度第 2 回委員会以降の主な経過について（資料 2 参照）

	事務局長、キャリアサポートセンター長、広報室長、教務委員長、委員会事務局より、資料 2（別添 A～D を含む）に基づき報告し、確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。 4. 2024 年度学校関係者評価報告書の確認について（資料 3 参照） 委員長より、前回委員会でいただいた総評を加えた報告書の最終確認を求めたところ、特段意見がなかったので、4 月に東京都に提出することが確認、了承された。 5. 意見交換など 各分野の教育課程編成委員会と今年度の学科の概況について報告し、意見交換を行った。詳細は別紙のとおり。 6. 2025 年度の委員について 事務局より、3 月末で任期満了となる石川委員、森川委員には再任をお願いし、黒田委員、篠塚委員は今期をもって退任となる旨が報告された。 続いて、黒田委員、篠塚委員より挨拶があった。 7. 次回日程、その他 事務局より、新年度の第 1 回は 6 月 28 日（土）を予定している。4 月以降、改めて出席の確認をさせていただきたいとの説明があり、了承された。
--	---

以上

2024 年度第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 3. 2024 年度第 2 回委員会以降の主な経過について（資料 2 参照）

○榊原事務局長、光本キャリアサポートセンター長、宗像広報室長、渋谷教務委員長、事務局土方より、資料 2（別添 A～D を含む）に基づき報告が行われた。（報告の詳細は省略）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
①追加入試は看護科だけか。 ②病院で男性の事務職員の採用ができず、困っている話を聞く。今回の出願者の中に男性はどれぐらいいるか。 ③以前、病院へ研修にいらしていた教員がいたが、現在も行っているのか。一定期間病院で研修するシステムがあるとよいのではないか。 ・看護科の追加入試における募集人数は、はっきりしているか。 ・授業アンケートについて、今は Web による方式なので以前より短時間で回答できるので、授業時間内に回答させて教員がチェックする等、回答率を上げる対策を検討してほしい。 ①アンケートの結果を見ると看護科は科目によって大分違う。基礎科目と専門科目で差があるのではないか。 ②外国人学生に対する配慮や、既に教育上取り組んでいることがあれば教えてほしい。 ・今、学び直しが社会の流れになっている。社会人や大卒未就職者へのアプローチについて、計画や実施していることがあれば教えてほしい。	①全ての学科で行う。出願数の多い介護福祉科も欠員が出ているため募集を再開する。 ②1 割弱だと思う。 ③30 年程前に事務職員から教員に替わる者を受け入れてもらった。若手の先生方から要望もあるが、現状では行っていない。 ・看護科は、厳しい状況を受けて今年度初めて追加入試を行う。 ・回答率はクラスによってばらつきがある。アンケートの期間は 2 週間設けており、1 週間の段階で回答率をフィードバックしている。 ①科目の差は確かにあると思う。 ②ベースになるのは日本語なので、次年度は専任の教員を雇用するほか、日本語教育をフォローする体制を準備しているところである。 ・社会人や大学既卒者、中退者に対して、修業年限が 2～3 年の専門学校正課もアプローチをすることは難しく、進学サイトも少ない。また、本校の医療事務分野を目指す社会人は少ない。国家資格系の介護福祉科と看護科は社会人も入ってくるが、介護は留学生ニーズが多く、看護は各校で取り合う状況になっている。

・学び直しの案内を企業に送っている学校もある。実際に興味を持っている人も多いし、学び直しをして資格取得を目指す人の意欲はすごい。企業としても期待が高まっているので、検討してはどうか。 ・診療情報管理士は医療の質を高める上で重要な仕事であり、魅力的な資格だと思うので、そこをアピールするとよいと思う。	・看護の場合は、看護協会で社会人が看護師資格の取得を目指すためのリーフレットを作り、各学校で広報に使っている。職業団体からのアプローチもお願いしていきたいと思う。 ・産学連携が一層重要になると思う。
--	--

次第 5. 意見交換など

○各分野の教育課程編成委員会と今年度の学科の概況について報告し、意見交換を行った。詳細は次のとおり。

(教育課程編成委員会について)

各分野からの報告
【医療事務分野】 ・医療秘書科は、2年次からのコース分けを学生のニーズや進路に合わせて6つから3つに厳選した。 ・管理科・IT科は、効果のあるオンデマンド授業を増やし、資格試験対策や、より学びやすい授業に組み立て直した。 ・3学科で内容がほぼ同じものは授業名を統一し、転科に対応しやすいように配慮した。 ・今後医療機関で普及すると予測されるRPAについて、病院で実施する研修に本校も参加させてもらう予定です。 【くすり・調剤事務分野】 ・くすり・調剤事務科の概要、在籍者数、就職内定状況、次年度の募集状況等を報告した。 ・薬店実習の内容、登録販売者試験の合格率向上に向けたカリキュラム編成について報告し、意見を伺った。 ・OTC薬のコンビニ販売、薬機法の改正、調剤事務分野のDX推進等の業界変化を踏まえ、今後求められる学生像と教育について意見を伺った。 【福祉分野】 ・多死社会を受けて、看取りに関するケアに特化した科目を2年次に設定した。 ・外国人留学生の生活面・学習面、日本語能力に関するサポートについて意見をいただいた。 ・介護福祉科では入学から卒業までの達成課題を設け、それに対して学生が自己評価を行っている。その内容について委員から意見を伺い、次年度の学習活動に生かしていくことを継続している。

【看護分野】

- ・苦戦している学生募集の状況を受けて、来年度はAO入試を導入する。委員からは、地方から来る人のために学生寮を用意してはどうかとの意見をいただいた。
- ・来年度は実習施設が大きく変わるので、その準備状況について報告した。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
・募集要項を見ると、看護科の実習費用がすごく高くなっている。その辺の影響はないのか。 ・私の住む自治体では、この1年でドラッグストアが3店舗増え、トータルで10店舗ぐらいある。このような状況が就職実績に結びついているのか伺いたい。 ・販売職に興味がある学生が増えれば、募集につながっていくと思う。 ・設備は整っているが、薬剤師を置けないということもあるようで、今後の見通しを伺いたい。	・ご覧いただいているのは次々年度に向けたものなので、次年度募集に関しては関係ない。 ・都立や病院立の看護学校とは比較にならないが、他の専門学校と比較すると低く抑えられていると認識している。 ・今年は就職希望者全員が内定をいただいている。内訳はドラッグストアで販売員として働く者、調剤事務、その他である。 ・近年、調剤事務を志望する学生が増える傾向にあったが、今年度は販売職を希望する学生が多かった。1年生の志望は、販売職と調剤事務が半々である。 ・全国のドラッグストアの店舗数は、コンビニエンスストアを超えた。 ・各企業の目指す方向性が微妙に違っており、医薬品や化粧品に特化している企業もあれば、食品に力を入れたスーパーに近い業態を取っているところもある。エリアのニーズを酌み取りながら頑張っている状況である。学生には、自分の目指したい姿と企業の理念が合うかを吟味してほしい。 ・ドラッグストアの中で調剤薬局を併設する場合には、基本的に1か月遅れになるので、いずれオープンすると思う。 ・薬剤師が不足しているため、補助として調剤事務の採用をしたいのだが、企業としては即戦力が欲しいので中途採用にシフトしてしまう部分もある。

(学科の概況について)

各学科からの報告

【医療秘書科】

- ・就職状況は非常に好調で、大学病院、総合病院のほか、健保組合に内定をいただいた。人材不足や少子化の影響もあり、以前に比べると1、2ランク上のところに内定者を出している。指導する立場として、専門知識に加え、社会人基礎をより身につけるためのカリキュラムを作っていく必要があると思っている。
- ・募集状況は、2クラスの確保はできた。
- ・学生たちは体育祭などの学校行事を楽しむことができた。特に、学園祭では高田馬場経済新聞、ヤフーニュース等のメディアに医療秘書科の学生を含めた数人の写真が掲載された。これが学生の思い出や募集活動にもつながるとよいと思う。
- ・退学者は少人数にとどめることができたが、年々、複雑で過酷な背景を背負う学生が増えている。担任、学生相談コーナーなどと連携し、相談対応することにより退学率を抑えることができた。

【診療情報管理科・医療事務IT科】

- ・2月9日に管理士試験が無事に終了した。
- ・就職は両学科ともに非常に好調だった。就職試験では課題のPowerPointによるプレゼンで意外な能力を発揮する者もあり、学生の能力を決めつけず、最大限見守りたいと思った1年だった。

【くすり・調剤事務科】

- ・就職希望者全員の就職が決まった。1年生については、既に数名が内定をいただいている。
- ・登録販売者試験については、目標に達しなかったが、前年度よりは向上した。
- ・カリキュラムを変更し、例年2年次に取得を目指していた登録販売者を、来年度の入学生からは1年次の9月に受験する形にした。これにより2年間チャレンジできるので、希望する企業に就職しやすくなると思っている。
- ・美容系の検定は、従来の心理的なケアを含むものから、実技、知識を中心としたものに変更し、その協会から認定校としての承認を受けたので、就職の選択肢も広がっていくと思う。

【介護福祉科】

- ・外国人留学生が1クラスから2クラスに増えるので、その準備に追われている。
- ・今年の2年生に関しては、国家試験を全員が受験することができた。自己採点では、60%ぐらいにはたどり着けると見ている。
- ・国家資格以外では、救命の資格のほか、生き甲斐づくりの視点で「レクリエーション介護士」の資格を全員が取得できた。
- ・就職に関しては、帰国する留学生を除いて全員が内定をいただいた。

【看護科】

- ・退学の理由はいろいろあるが、高校を卒業する18歳の時点で将来の仕事を選ぶのは難しいと思うので、進路変更はあってもよいと考えている。

- ・留年に関しては、今後の医療従事者の状況を考えると、何年かかっても卒業するまで諦めないことが必要かと思う。
- ・2月16日に第114回国家試験があった。
- ・就職は動き出しが早くなり、2年生である程度決め、エントリーシートを書き始める学生もいる。業者の無料ガイダンスなど、就職に対する支援の力も借りながら進めている。
- ・次年度の入学生から増える留学生の支援にも取り組んでいきたい。

以上